

# CentreCOM® 8624EL リリースノート

この度は、CentreCOM 8624EL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。  
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0688-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0688-02 Rev.A）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ソフトウェアバージョン 2.6.4 pl06 (2.6.4-06)

## 2 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.4 pl06 には、以下の制限事項があります。

### 2.1 SHOW USER コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証データベース」

Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになります。

### 2.2 ログについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- ログメッセージフィルターの設定（ADD LOG OUTPUT コマンド）において、MODULE パラメーターに SWITCH を指定しても（MODULE=SWITCH）、スイッチングモジュールのログが出力されません。これを回避するには、スイッチングモジュールの ID である 87 を指定してください（MODULE=87）。
- ログメッセージフィルターの設定（ADD LOG OUTPUT コマンド）において、複数のフィルターエントリーで比較演算子「!」（等しくない）を使用すると、「!」を使用したエントリーはすべて機能しなくなります。
- ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。（5～6 ページの「3.3 ログ受信機能について」もご参照ください）
- SHOW LOG RECEIVE コマンドの RECEIVE パラメーターに値を指定しても、項目の絞り込みが行われません。また、MASK パラメーターを指定するとエラーになります。（5～6 ページの「3.3 ログ受信機能について」もご参照ください）

---

### 2.3 トリガーについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」

CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

---

### 2.4 SNMP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。

---

### 2.5 NTP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。

---

### 2.6 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

---

### 2.7 ポートランキングについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートランキングと RIP を併用しているとき、トランクグループの所属する IP インターフェースがダウンすると、他の IP インターフェースから送信される RIP Response パケットの始点アドレスに、ダウンしたインターフェースのアドレスがセットされます。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行すると、ポートランキングが動作しなくなります。設定可能なトランクグループは最大 6 個なので通常は問題ありませんが、最初に設定を作成するときなど、コマンドラインから CREATE SWITCH TRUNK コマンドと DESTROY SWITCH TRUNK コマンドを繰り返し実行するようなケースでは、CREATE SWITCH TRUNK コマンドを 7 回以上実行する可能性があります。

す。入力した設定内容は正しく保持されていますので、ポートランキングの設定変更後は、設定を保存し、システムを再起動することをおすすめします。

---

## 2.8 スパニングツリープロトコルについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- 複数の STP ドメインに所属しているポートに対して SET STP PORT コマンドを実行するときは、下記のように STP ドメイン名を明示して、STP ドメインごとに設定を行ってください。STP ドメイン名を省略した場合、PATHCOST や PORTPRIORITY の変更がすべての STP ドメインに反映されないことがあります。

```
SET STP=s1 PORT=1 PORTPRIORITY=96
```

```
SET STP=s2 PORT=1 PORTPRIORITY=96
```

- デフォルト以外の STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てると、DISABLE STP PORT コマンドの設定が削除されます。STP ドメインの所属 VLAN にタグ付きポートを割り当てるときは、DISABLE STP PORT コマンドで STP を無効にしたポートがないかどうかを確認してください。
- ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。
- STP の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されます。

---

## 2.9 ハードウェア IP フィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- スイッチ本体宛てのパケットに対し、NOMATCHACTION で指定したアクションが機能しません。本体宛てのパケットをフィルタリングするときは、NOMATCHACTION を使用しないでください。
- EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの終点 IP アドレスが L3 テーブルに登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。L3 テーブルに登録されているときは正しく動作します。

---

## 2.10 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

---

## 2.11 IP インターフェースについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

---

## 2.12 SHOW IP ROUTE コマンドについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

SHOW IP ROUTE コマンドでは、リンクダウンしているインターフェース (VLAN) 名の後に「#」が表示されますが、VLAN ID が 4 桁の場合は「#」が表示されません。これは表示だけの問題であり、動作上の問題はありません。また、SHOW IP INTERFACE コマンドでは、VLAN ID が 4 桁でも「#」が表示されます。

---

## 2.13 ネクストホップが自分自身である経路について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ネクストホップが自インターフェースアドレスと一致している経路を IP の経路表に登録してしまいます。

---

## 2.14 ARP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定すると、システムがリポートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

---

## 2.15 DHCP リレーについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

パケット長 346 Byte 未満の DHCP パケットがリレーされません。

---

## 2.16 IGMP について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

---

## 2.17 IGMP Snooping について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

SET IGMP Snooping ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。

---

## 3 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書、および CD-ROM に収録されている「CentreCOM 8624EL コマンドリファレンス 2.6 (Rev.A)」の補足事項です。

---

### 3.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

---

### 3.2 システム時刻とログについて

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

- 本製品はリアルタイムクロックを内蔵していないため、再起動するたびにシステム時刻が 1999 年 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒に戻ります。ログなどの記録日時を正確に保つため、可能なかぎり NTP の利用をおすすめします。
- syslog サーバーにログを転送するときは、NTP を併用してください。

---

### 3.3 ログ受信機能について

**参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

本製品は、他の機器から転送されてきたログ（syslog、Net Manage Message Protocol、SRP の各形式をサポート）を受信することができます。設定は以下のコマンドで行います。

- ログ受信機能の有効化・無効化

**ENABLE LOG RECEPTION**

**DISABLE LOG RECEPTION**

ログ受信機能を有効化（ENABLE）・無効化（DISABLE）する。

ログ受信機能はデフォルトで有効。ただし、ログ受信テーブルに有効なエントリーを追加するまでは、実際にログを受信することはない。ログ受信テーブルにエントリーを追加するには、ADD LOG RECEIVE コマンドを使う。

- ログ受信テーブルへのエントリー追加・変更・削除

**ADD LOG RECEIVE={ipadd|ANY}** [MASK=ipadd] [ALLOW={YES|NO}]  
[PROTOCOL={ALL|BOTH|NEW|OLD|SYSLOG}] [PASSWORD={password|NONE}]

**SET LOG RECEIVE={ipadd|ANY}** [MASK=ipadd] [ALLOW={YES|NO}]  
[PROTOCOL={ALL|BOTH|NEW|OLD|SYSLOG}] [PASSWORD={password|NONE}]

**DELETE LOG RECEIVE={ipadd|ANY}**

ログ受信テーブルにエントリーを追加 (ADD)・変更 (SET)・削除 (DELETE) する。ログ受信テーブルは、どの IP アドレスから、どのプロトコル、どのパスワードでログを受信するかを指定するもの。各エントリーは、ログ送信元の IP アドレス / マスクと、受信可否、プロトコル、パスワードで構成される。

ログ送信元の IP アドレスが複数のエントリーにマッチする場合は、もっともマスクの長い (対象アドレスがもっとも限定された) エントリーにしたがって処理される (エントリーの追加順序は意味をもたない)。

(制限事項 2.2 (1 ページ) もご参照ください)

パラメーター	説明
RECEIVE	ログ送信元の IP アドレス。MASK パラメーターと組み合わせで範囲を指定することも可能。ANY と 0.0.0.0 はすべての IP アドレスを示す。
MASK	RECEIVE パラメーターで指定したアドレスに対するマスク。IP アドレスを範囲指定するときに使う。ただし、RECEIVE=ANY または RECEIVE=0.0.0.0 のときは指定できない。省略時は、RECEIVE で指定した IP アドレスがクラス A、B、C のネットワークアドレスなら各クラスの標準マスク、それ以外なら 255.255.255.255 (単一ホスト) となる。
ALLOW	RECEIVE/MASK で指定した IP アドレスからのログを受け入れるかどうか。YES なら受け入れ、NO なら拒否する。省略時は YES。
PROTOCOL	RECEIVE/MASK で指定した IP アドレスから、どのプロトコルでログを受け入れるかを指定する。OLD (Net Manage Message Protocol)、NEW (SRLP)、SYSLOG、BOTH (OLD と NEW)、ALL (OLD、NEW、SYSLOG のすべて) から選択する。省略時は BOTH。
PASSWORD	SRLP プロトコルにおいて、ログ送信元を認証するためのパスワードを指定する。省略時はパスワード認証を行わない。本パラメーターは、SRLP 使用時 (PROTOCOL=NEW または BOTH、ALL のとき) のみ有効。

- ログ受信テーブルの表示

**SHOW LOG RECEIVE** [= {ipadd|ANY}] [MASK=ipadd]

ログ受信テーブルの内容を表示する。

(制限事項 2.2 (1 ページ) もご参照ください)

### 3.4 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレームについて

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

---

### 3.5 拡張モジュール AT-A46 について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

本製品において、拡張モジュール AT-A46 は AUTONEGOTIATE（オートネゴシエーション）による 1000Mbps 通信のみのサポートとなります。

---

### 3.6 ポート帯域制限機能の受信レート上限値と TCP 通信のスループットについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

スイッチポートに受信レート上限値（INGRESSLIMIT）を設定している場合、同ポートを経由した TCP の通信では、TCP データのスループットが設定した上限値よりも低くなります（低下の度合いは通信状況に依存します）。これは TCP プロトコルの特性として、帯域制限機能によって破棄されたパケットの再送処理などが発生するためです。また、TCP 以外においても、同様の再送処理を行うプロトコルではこの現象が発生する可能性があります。

---

### 3.7 フォワーディングデータベースについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

初回のエージアウトでは、すべてのダイナミックエントリがフォワーディングデータベースから削除されないことがあります。ただし、2 回目以降のエージアウトではすべてのダイナミックエントリが削除されます。

---

### 3.8 DHCP/BOOTP リレーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

マルチホーミングと DHCP/BOOTP リレーは併用できません。

---

## 4 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド  
ENABLE、ADD、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。  
CLASSIFIER、DHCP（SET DHCP EXTENDID は除く）、ENCO、ETH、GARP、GUI、HTTP、LDAP、OSPF、PKT、PKI、PORTAUTH、RADIUS、SERVICE、SKEY、SSH、SSL、TACPLUS、TEST、TACACS、VLANRELAY、VRRP
- 以下のコマンド（パラメーター）  
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP GROUP  
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP TARGETADDR  
ADD/DELETE/SET/SHOW SNMP USER  
COPY  
CREATE/SET TRIGGER [BEFORE] [AFTER] [DATE] [DAY]  
CREATE/SET TRIGGER TIME

```
CREATE/SET LOG OUTPUT [MAXQUEUESEVERITY] [PASSWORD]
[QUEUEONLY] [DAY]
CREATE/SET LOG OUTPUT DESTINATION=ROUTER
DUMP
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]
SET SYSTEM HOSTID
SET SYSTEM TERRITORY
SET SYSTEM RPSMONITOR
SET SYSTEM DISTINGUISHEDNAME
SET SYSTEM DISTNAME
SHOW SYSTEM TEMPERATURE

CREATE VLAN [{PROTECTED ; PRIVATE}]
ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH BIST
SET/SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [SPEED={10MHAUTO ; 10MFAUTO ; 100MHAUTO ;
100MFAUTO ; 1000MHAUTO ; 1000MFAUTO ; 1000MHALF ; 1000MFULL}]
SHOW SWITCH MEMORY
SHOW SWITCH SWTABLE

ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [OSPFMETRIC] [FILTER]
[POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER] [MULTICAST] [IGMPPROXY]
[ADVERTISE] [PREFERENCELEVEL]
ADD/CREATE/DELETE/DESTROY/DISABLE/ENABLE/SET/SHOW IP MVR
ADD/DELETE/DISABLE/ENABLE/RESET/SET/SHOW PING POLL
ADD/SET IP ROUTE FILTER [PROTOCOL=OSPF] [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SHOW IP TRUSTED
ENABLE/DISABLE/SHOW IP ADVERTISE
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
FINGER
SET IP AUTONOMOUS
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
PURGE PING TOTALLY
SET BOOTP MAXHOPS
TRACE [ADDRONLY]
```